事例No.	2605
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	カール　ハインツ　ベンクスヴィートリッヒ　クリスティーナ　ベンクス

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・公共施設活用

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

カール　ハインツ　ベンクス
ヴィートリッヒ　クリスティーナ　ベンクス

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

大　賞

カール　ハインツ　ベンクス
ヴィートリッヒ　クリスティーナ　ベンクス

新潟県十日町市

概　要

平成５年に一人のドイツ人建築デザイナーが新潟県旧松代町（現十日町市）の古民家を購入。廃屋でしかなかった古民家が見事に住宅として蘇った。古民家が次々と取り壊される風潮に「宝石を捨てて砂利を買っている」と警鐘を鳴らし、古民家再生により里山の魅力を伝えるため竹所集落で古民家の再生に取り組む。数年後、古民家を購入し移住する人が現れた。自宅を含め７棟が完成した際には、過疎で衰退した村には子供の声が聞こえ、若い人たちの移住により村に笑顔と活力が生まれ「奇跡の村」と呼ばれるまでになった。さらに、彼の夫人も松代、竹所の住民の一人として、竹所プロジェクトに積極的に携わっている。



評価された点

・外国人の目から日本の古民家の価値を見出し、自ら再生に取り組むことで、地域住民に自らの地域が持つ価値に気付かせた。古民家再生だけではなく、地域住民を巻き込んだ地域活動にも取り組み、地域づくりに大きく貢献している。新たに移り住んできた人たちが地域の魅力について情報発信することで新たな人とモノの流れができており、今後の活動の広がりにも注目したい。
・古民家再生を通じ山村の魅力を発信し、過疎集落の移住者流入に大きく貢献されている。
　また、単なる建物再生ではなく古民家再生を日本文化を後世に残し伝える取組みとしてもその果たされた役割は大きい。
・カール氏の取り組みは見に行ったことがあるが、独特なデザインで中々面白い。
・よそ者の目、外国人の目を通じて、地域の本物の宝を気づかせてくれている。集客にもつながる。
・「よそ者」として地域の価値を評価し、地域活性化につなげた長年の功績を評価。
・古民家再生の取り組みは、日本の伝統的建築文化を維持するとともに、過疎で衰退した村を復活させるなど、大変な成果を得た事業である。外国人である一人のドイツ人建築デザイナーが古民家の価値を見出し、それを再生復活する地道な努力は十分に評価に値するし、感謝したい。
・よそ者がふるさとづくりを具体的に成功させた事例と考える。
・古民家再生の例は多くあるが、長年地域全体のふるさとづくりに展開されて世帯数増につながっている点は高い成果を出している。
・市との連携、住民との協働の高さがうかがえる。
・海外からのデザイナーが実際にやってみせたことがすごいと思う。奇跡の村を応援したい。
・当初は古民家再生が地域振興という目的で始められたとは思えないが、外国人の視点だからこそ、日本の歴史的魅力を発見できたとも考えられ、人材活用の視点からも地方のまち、村再生の参考モデルとなる。





